

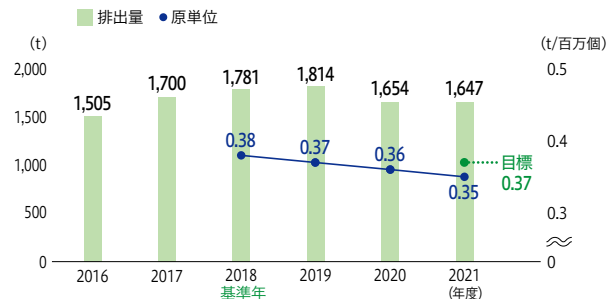
循環型社会の構築

東海理化グループでは、限りある資源を有効に使用していくため、製品の生産に使用する樹脂や金属など、さまざまな資源の循環利用を進めています。また、生産活動では、水の使用が不可欠であるため、使用量の低減や水質管理の徹底により放流先への影響低減に取り組んでいます。

生産における廃棄物の低減

製品の歩留まり改善や不良率の低減、樹脂・金属廃材の再利用化、資料のペーパーレス化など、3Rの徹底により、廃棄物の排出量を低減し、資源を有効活用する取り組みを行っています。

■ 廃棄物排出量と原単位の推移(東海理化)



物流における梱包・包装資材の低減

物流に伴う環境負荷を低減するために、梱包・包装資材の使用量低減に向けた取り組みを積極的に推進しています。

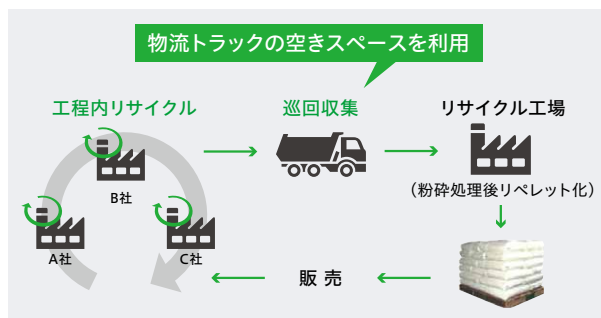
海外向け部品の梱包に使用しているポリシートおよびコネクタ梱包用ポリ袋の厚みを、品質を確保しつつ極限まで薄くすることで、年間2.1tの梱包材を低減しました。

また、コネクタ梱包に使用している段ボール箱の板紙中心部を強化軽量タイプに変更することで、1箱あたりの重量を10%低減しました。



プラスチック端材の活用

樹脂廃材活用PJTを発足し工程内リサイクルの取り組みを強化しています。さらに、仕入先さまを含むサプライチェーンでの資源循環体制を構築し、工程内で消費しきれない分は塗装治具に活用、今後は製品材料としても利用を拡大していきます。



シートベルト端材のアップサイクル

シートベルト製造工程で発生する端材は、ファッション小物として再生し商品化に挑戦しています。地元のテントメーカーにも協力を呼びかけ、提供されたテント端材を組み合わせデザインにこだわるなど、商品価値を高め、「サーキュラーエコノミー」の実現に取り組んでいます。



水使用量の低減

メッキ処理工程では、排水の一部をイオン交換塔で処理した後、工程内で再利用しています。また、半導体の製造工程では、微細なゴミを除去するために使用する純水の製造過程で発生する濃縮水や、使用後の純水の一部を再利用し、水の使用量と排出量を低減しています。

